〔書　評〕

石崎秀夫著　雲：

(ANA AVIATION WEATHER 付属編)

B 5 版　145頁　全日空教育訓練テキスト

この書の著者，石崎氏は全日空のボーイング 727 の機長であり気象学会の会員でもある．気象については豊富な知識と経験をもっており特に氏が飛行機から撮影した写真の数はおびただしいものである．このたび，忙しい業務の余暇をさいて作られたこの書は異色のものである．

元来，雲を系統だって分類することはむずかしい．それでも地上からの観測の場合には見ている場所が決まっているので分類しやすく以前から“10類の分類”として知られている．以前，同氏から直接聞いた話であるが，昔 DC-3 型機で 3000m ぐらいの高さを飛んでいた時には10類の分類でも別に不自由はなかつたがジェット機になって僅か10分たらずで上層雲の上側に出てしまうようになると今まで下からだけしか見ていなかつた中・上層雲を上からも見るようになって雲の分類には困ったと云っていた．その氏がどのように雲を分類したかと思ってこの本を読んでみると誠にうまいこと分類している．すなわち著者も述べているように10類の分類は如何にも不便であるが一応これに基礎をおいて分類し，その時にどんな aircraft turbulence があるかについてまで述べている．私も羽田に勤務していた時，何回となく飛行機に搭乗させてもらったがベテラン・パイロットは雲の形を見て turbulence があるかどうかをうまく判定している．しかし，多くの場合，雲の形の分類は余りにも主観的なため始めての人にはわかりにくい．恐らくこの本はこの欠点をのぞくためにパイロットの訓練用として作られたものだろうと思う．

しかし気象学の立場からこの雲の写真を見るといろいろと面白いことがある．たとえば雲は多重構造をしているが，これは Arnason が求めた発散の鉛直分布が何層にもなっていることとあわせ考えると面白い．その他，地形によって雲がどんな形にできるか，ジェット流の下側の雲の形からそこにどんな鉛直流があるかなどを知るのにも役に立つものである．1963年に R.S. Scorer (Quart, J. Roy. met. 89巻) が WMO の雲の分類を批判しているがこの雲の写真をゆっくり見ていただけば10類の分類が如何に問題が多いものか分かるだろう．更にこれらの資料をもとに鉛直流と雲の形との関係を求めておくことは将来，中スケールじょう乱の看視を行なう場合の基礎的な資料として有効になると思う．いつの機会かにこれらの雲の写真を解析と結びつけられることを望みたいものである．(本文145頁，写真約 200葉)．

(中山　章)

“雲”の販売について

この本は元来非売品ですが全日本空輸株式会社のご好意により以下の要領で予約販売します．ご希望の方はお申込下さい．

題　　名	雲（写真 200 余枚）
著　　者	石崎　秀夫（全日空）
販売部数	300 冊
定　　価	550 円（送料 100 円）
申込場所	東京都千代田区大手町 1－3－4　東京管区気象台業務課大和一
申込締切	在庫が無くなり次第締切ります．